

(25) 着任当初、パートナーとなるC/Pの知識・経験・能力は高かったですか。

	高かった	やや高かった	普通	やや低かった	低かった	無回答	総計
フィリピン家畜	4 57%	0%	3 43%	0%	0%	0%	7 100%
フィリピン理数科	4 36%	2 18%	3 27%	1 9%	1 9%	0%	11 100%
タイ山岳	1 13%	2 25%	1 13%	2 25%	1 13%	1 13%	8 100%
セネガル緑	4 40%	0%	5 50%	0%	0%	1 10%	10 100%
セネガルグディリ	2 15%	2 15%	4 31%	2 15%	1 8%	2 15%	13 100%
合計	15 31%	6 12%	16 33%	5 10%	3 6%	4 8%	49 100%

(26) C/Pの人数は、チーム派遣の技術移転を効果的に進めるのに妥当でしたか。

	多すぎた	やや多かった	妥当	やや少なかった	少なすぎた	無回答	総計
フィリピン家畜		0%	5 71%	0%	2 29%	0%	7 100%
フィリピン理数科		1 9%	7 64%	0%	2 18%	1 9%	11 100%
タイ山岳		1 13%	5 63%	2 25%	0%	0%	8 100%
セネガル緑		0%	3 30%	3 30%	4 40%	0%	10 100%
セネガルグディリ		0%	5 38%	4 31%	1 8%	3 23%	13 100%
合計		2 4%	25 51%	9 18%	9 18%	4 8%	49 100%

(36) 運営や技術支援に対するJICA本部の対応に関して、改善すべき点がありますか。

プロジェクト名	特になし	ある	無回答	総計
フィリピン家畜	7 100%	0%	0%	7 100%
フィリピン理数科	3 27%	6 55%	2 18%	11 100%
タイ山岳	3 38%	3 38%	2 25%	8 100%
セネガル緑	4 40%	5 50%	1 10%	10 100%
セネガルグディリ	2 15%	7 54%	4 31%	13 100%
合計	19 39%	21 43%	9 18%	49 100%

それはどこに対する改善点でしょう（複数回答可）。

	国内支援 委員会	本部事務 局	技術顧問	総計
フィリピン家畜	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%
フィリピン理数科	2	4 36%	0 0%	6 36%
タイ山岳	1	3 38%	0 0%	4 38%
セネガル緑	5 50%	3 30%	3 30%	11 110%
セネガルグディリ	2 15%	5 38%	2 15%	9 69%
合計	7 23%	15 31%	5 10%	

第三者評価が必要な理由

チーム派遣：27名（回答23名、無回答4名）

モニタリング・計画修正のため
<ul style="list-style-type: none"> ・配属先の評価から次の計画を立てるべき ・活動を的確なものにする為 ・プロジェクトであるので勝手な、行動はできないと思うため。 ・まじめにやっているかどうか確かめる必要がある ・見られることで、質が向上すると思います。 ・ある程度成果を出す必要性を実感させるため ・客観的に見てもらえることで、計画の見直しができる。 ・第三者というより他の隊員の評価（意見）で本人には見えない部分が見えてくる ・職種がちがうチームだったので職種についてのアドバイス等相談できる人がほしい。 ・チームでも活動は、1人でやる事が多く、その為回りとの比較がむずかしいので。 ・自分もしくは身内だけでは見方が偏ることがあるから。 ・どのような人材がチームに必要なかを判断するためにはある程度評価するのはよいと思う。しかし、全くの第三者では意味がないと思う。少しは任国やチーム事情に通じていないと適切な評価は無理だろう。 ・活動中は熱心に入りこみすぎて客観的な見方ができないので ・そうでないと、向上がないし、InputにみあうOutputがでてこない。 ・自分だけだと活動を客観的に見つめられないから。 ・隊員の活動は得てして独り善がりとなることが多いため、第三者の評価・アドバイスは不可欠であると考えられるため。
客観的視点の必要性のため
<ul style="list-style-type: none"> ・活動の相対化
その他フィードバックのため
<ul style="list-style-type: none"> ・活動経験を今後の活動（他のプロジェクトも含む）に活かすため
アカウンタビリティの確保のため
<ul style="list-style-type: none"> ・隊員活動はあくまでボランティアであるとの観点からは難しい面もあるが、技術協力をも騙し、それなりの資金投入を伴う以上、事業の質的な向上の為の何らかの取り組みは必須を思われる。 ・チーム派遣の枠の中で、多額の資金を使うわけで JOCV（ボランティア）であっても、評価は必要だと思う。そうでないと、プロ意識のない JOCV がでてくるから。
モチベーションの向上のため
<ul style="list-style-type: none"> ・評価がないと、自己満足で終わってしまうと思う。また、自分の活動に対しての評価があることが隊員の活動意欲につながることもあると思う。
その他
<ul style="list-style-type: none"> ・隊員には個性的な人物が多いが、それと自己管理能力とは別の話である。 ・隊員の技術レベルの評価ではなく、フェーズ2時に必要かどうかという評価はある。 ・日本人による評価が多いので、相手国の人々が見た評価も必要だと思います。

個別派遣：53名（回答48名、無回答5名）

モニタリング・計画修正のため

- ・悩んでいる時、他者の目からみた意見が開ける。
- ・片寄った方向の活動や自己満足になると危険だから。
- ・異国での活動は、自分を見失いそうになることがあるから。
- ・何をしているかわからないのでは目標をもちようがない。
- ・自分1人だけでは、どの程度その職場に貢献できているのかつかみにくい。自分なりに評価してみるのも大事だが、客観的に厳しく見てくれる第三者も必要なのではと思う。
- ・暗中模索で行っている分、渦中にいる場合は必要。
- ・自己満足におちいらないため、人の目で見て客観的に活動を見て、はばをひろげるため。
- ・現地の環境にいて、自分が社会人であるという意識が薄れる時がある。
- ・第三者による評価が全くなければ身勝手な活動になってしまう
- ・独善的な活動におちいる危険がへらせられる。あと社会人としての経験が（3年）少ない私みたいな人にはやはりアドバイスしてくれる人があると安心だと思うので
- ・活動がおろそかになりがちで隊員もいると思うので。
- ・自分も含めてだが一人よがりの活動になる危険性が高い。
- ・個人の活動差が非常に大きい。
- ・自分だけでは心細いので、他の隊員などのアドバイスなどとてもためになる。
- ・私が必要と思っている事は、押し付けかも知れない。客観的な意見を多数もらって、それを見定めるのも、本人の能力として必要である。
- ・意見等（必要な人のみ）を交換してみたい。
- ・軌道修正ができない。反省ができない。マンネリになる。
- ・一人よがりにならない為にも必要だと思う
- ・配属先と隊員との間に立って、隊員が出来る事を気づくという意味で必要。
- ・評価がないといいかげんな活動も続いてしまうから。
- ・経験を得る場ではあるが遊びではない
- ・活動していて、これでいいのか、と、自分で迷うときがある。自分の活動を見直す意味で、必要だと思う。
- ・良い、悪いをだれかに言ってもらわないとそれ以上の向上は非常にむずかしい。
- ・活動があいまいになりやすいし、手を抜き易い。
- ・協力隊員の性格上、前しか見えていない時がある！やっぱり国際協力の点では素人。
- ・活動が軽視されているから。妥当な技術支援であるかどうか、冷静に考えられるから。隊員の中には、活動外のことに専念している人がいるから。
- ・客観的に国際協力、社会開発のエキスパートに活動を評価してもらうことでどのような点が不足していて工夫が必要なのか、どのような点を伸ばしていけばいいのかがより具体的になると思われるので。
- ・より良い事業になるのでは？

客観的視点の必要性のため

- ・客観的な視点は必要だと思います。
- ・現地の事情を把握した上で客観的評価もあってよいと思います。
- ・客観的な意見はきくべきだと思う。
- ・絶対に必要というわけではないが、自分の行ったことを客観的な目でみることができるから。

その他フィードバックのため

- ・特にその後技術専門家等を目指す人にとっては必要
- ・又、帰国隊員の社会的地位の向上を目指すのであれば派遣中の活動の質を高める必要があり、評価は必要と思う。

アカウンタビリティの確保のため

- ・ボランティアとはいえ、税金で派遣されており、現地の人達にとっても居候では困まると思う。
- ・税金を使ってやっているからには、適切な使い方であるか評価すべき
- ・私的活動ではないので、他人が評価する権利は認められるし、税金で運営される以上、意義を計る必要がある
- ・日本の税金を使っているのだから、効果的な活動内容にする努力をするのは当たり前だと考える。
- ・ODAによる派遣であるため、情報の開示。
- ・税金から経費が支出されている以上その結果に対して国民にきちんと報告できる体制は必要。
- ・自己満足で終わっては活動に意味がない。国民の税金を使わせていただいている以上、報告、評価は絶対条件。
- ・税金を使って活動をしているから。でも、専門家ではないJOCVを評価するのは難しいですね。
- ・協力隊といえどもODAの中で行われているから。

モチベーションの向上のため

- ・配属先からの評価が無く、自分の活動に対しての誰かからの評価が欲しかった。評価がないとむなしくなる。
- ・十分評価に耐える活動をしている人も多く、そういったことをアピールするべき

<ul style="list-style-type: none"> ・誰かに見られてる、評価されていることでやる気がでる。ただしその第三者は隊員の評価をするのに適任であることたとえばその隊員の技術面においてある程度の知識があるとか。 ・それによって、活動への前向きな動機となる。しかし干渉はさけるべき
その他
<ul style="list-style-type: none"> ・社会主義が崩壊した理由を考えれば、当然だろう。 ・現在なさすぎるため。 ・報告書に対しても第3者の評価があるだけでなく自己評価をするしかない。

第三者評価が不必要な理由

チーム派遣：7名（回答6名、無回答1名）

評価は無理・困難なため
<ul style="list-style-type: none"> ・現場の活動は第3者には理解し難いと思う
プロジェクトの評価で十分なため
<ul style="list-style-type: none"> ・隊員も含めたプロジェクトとしてのモニタリング、評価が行われれば十分。 ・協力隊員が全員評価されるわけではないのでチームorプロジェクトの評価のみ必要。
ボランティア性に反するため
<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアは、自発的行為であって、他人の評価を気にしなければならないような雰囲気があってはいけないと思う。
その他
<ul style="list-style-type: none"> ・第三者がいなくても評価できる。がんばってるか、がんばってないか、は他の隊員も事務所もわかる。 ・もしがんばってなかったとしても、どうにもできない。ボランティアではなく、仕事、として給料を払っているのならクビにすることもできるのだが... ・チームで派遣される以上、チームワークと組織を理解できる人間を派遣すべきで、同僚間の評価や、外からの個別の評価は好影響を生まない。

個別派遣：20名（回答20名、無回答0名）

評価は無理・困難なため
<ul style="list-style-type: none"> ・個人で活動している部分では、それぞれ置かれている環境が違っている。 ・個々の状況がちがいきすぎる。 ・また、短期間で、本当の評価をするのは、困難だと思います。さらに、その評価の利用方法に疑問が残ります。 ・隊員各個人の目標はちがうので、その状況を知らない第3者の評価は不要。 ・評価基準の設定は、協力隊活動の性格上、不可能である ・評価方法の設定が困難であり、正当に評価出来るとは思えないため。もしそれが可能であれば、評価した方がよい。 ・誰がどのように評価するかにもよるが...適切な評価がなされるとは思わないから、そもそも協力隊の主旨とあわない。評価するのであればその前に適材適所に派遣しているのかを評価すべきでは？。 ・隊員の数だけ様々な個々の活動があつていいものだと思うので。 ・協力隊員の派遣の目的が現在は不明確である以上、評価はムリ？。
自己評価をしているため
<ul style="list-style-type: none"> ・隊員のレポートによりある程度評価は出来ると思う。 ・自分が一番わかっている。評価されて、その後どうするのか？ ・自分の活動に対する評価は自分でしかできないと思う。 ・活動の評価は他人が決めるものではなく、自己達成度だと思う。 ・自分自身の責任で、どこまでやるかを決めることが必要だと思うから。 ・評価を何につかうのか不明？何のため何か？本人が十分報告で自己評価してると思いますがけど。 ・ある程度の評価はあってもいいと思うが基本的には個人がいろいろ考えて活動することであるので、第三者から画一的に評価されるのはどうかと思う。
ボランティア性に反するため
<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動に優劣をつけるのは、反対です。 ・あくまでもボランティアなので良いのでは。 ・JOCVとしての個々の独自性がなくなる。 ・専門家ではないし、ボランティアであるから。
その他
<ul style="list-style-type: none"> ・任国の人との交流まで評価されたくない。また、技術移転の評価だけに専念したくない。 ・活動の評価より要請の評価を先ず改善すべき。

青年海外協力隊チーム派遣に関するアンケート調査

国際協力事業団（JICA）の事業につきましては、日頃よりご協力をいただきありがとうございます。

さて、JICA では、青年海外協力隊事業の一形態として、共通の活動目標のもとに複数の隊員を派遣することにより、総合的に地域経済・社会開発や生活向上を目指す「チーム派遣」事業を展開しております。JICA は、チーム派遣事業のさらなる向上を目指して、これまで実施したチーム派遣に関する調査を実施することといたしました。

本アンケート調査は、特にセネガル・マラウイ・フィリピン・タイの案件を中心に、かつてチームで派遣された隊員 OB/OG の皆様の幅広いご意見をお聞かせいただくことを目的といたします。

なお、皆様にご回答いただいたアンケートは、分析以外の用途に使用せず、個別情報の外部への提供は一切行いませんので、お名前についてもできる限り記載をお願いします。

またアンケート結果を踏まえた調査結果については、来春頃に JICA ホームページ上にて公開予定です。

ご多忙中大変恐縮ではありますが、ご協力よろしくお願い申し上げます。

国際協力事業団 青年海外協力隊事務局

ご記入が終わりましたら、同封の返信用封筒にお名前をご記入の上で、

11月12日（月）までに、ご投函下さい。

本アンケートに関するお問い合わせは、以下をお願いいたします。

国際協力事業団 青年海外協力隊事務局

担当：畠中（はたけなか） TEL：03-5352-5575 e-mail：hatakenaka.michiko@jica.go.jp

<ご自身についてお答え下さい。>

(1) お名前	
(2) 派遣国	国
(3) プロジェクト名	
(4) 職種	
(5) 隊次	

以下の質問に、最も適切な選択肢一つに○をつけてお答え下さい。ただし、一部「複数回答可」の質問もあります。

<あなたの参加したプロジェクトについてお聞きします。あなたの派遣期間中の状況についてお答え下さい。>

- (1) チーム全体の活動計画やプロジェクトデザインマトリックス (PDM) 等、チームの活動計画に基づいて活動していましたか。
1. 完全にチームの活動計画に沿って活動していた
 2. だいたいチームの活動計画に沿って活動していた
 3. 一部、チームの活動計画に沿って活動していた
 4. チームの活動計画はあったが、特に意識して活動はしていない
 5. チームの活動計画はなかった

- (2) プロジェクトの PDM 或いはそれ以外で上位目標、プロジェクト目標、成果 (あるいはその他の活動計画) が明確になっていた場合、覚えている範囲内で結構ですから、具体的にご記入下さい。

プロジェクト目標：

成果 (あるいはその他の活動計画)：

[] どれも覚えていない、または知らない方は [] に○をつけて下さい。

- (3) プロジェクトの協力分野は、任国において優先順位の高い分野であると思いますか。
1. 非常に高い
 2. 高い
 3. 普通
 4. やや低い
 5. 低い
- (4) 配属先のプロジェクトに対するエーズは高かったですか。
1. 非常に高かった
 2. 高かった
 3. 普通
 4. やや低かった
 5. 低かった
- (5) あなたと一緒に活動していたカウンターパート (以下、C/P という) の、プロジェクトに対する期待は高かったですか。
1. 非常に高かった
 2. 高かった
 3. 普通
 4. やや低かった
 5. 低かった
- (6) プロジェクトに対する最終受益者 (住民、農民、患者等) の期待は高かったですか。
1. 非常に高かった
 2. 高かった
 3. 普通
 4. やや低かった
 5. 低かった

(7) プロジェクトは十分な事前の情報に基づいて計画されていたと思いますか。

1. 十分な情報
2. それなりの情報
3. やや不十分な情報
4. 全く不十分な情報
5. わからない

(8) 目標達成の手段として協力隊員の派遣は妥当だったと思われませんか。

1. たいへん妥当
2. 妥当
3. 普通
4. 他のスキームの方がよかった
(適切だったと思うスキームは？：a. 専門家、b. プロ技、c. 無償、d. 草の無償、e. その他)
5. 支援の必要はなかった
6. わからない

(9) 質問(2)でプロジェクト目標を記入された方にお聞きします。プロジェクト目標は、チームとして何%程度達成されたと思いますか。(%を示す数字を○で囲んで下さい)

100 - 90 - 80 - 70 - 60 - 50 - 40 - 30 - 20 - 10 - 0 %

そのように判断したのはなぜですか。できるだけ具体的な活動例をあげて説明して下さい。

(10) 質問(2)で成果(あるいはその他の活動計画)を記入された方にお聞きします。その成果(あるいはその他の活動計画)は、何%程度達成されたと思いますか。(%を示す数字を○で囲んで下さい)

100 - 90 - 80 - 70 - 60 - 50 - 40 - 30 - 20 - 10 - 0 %

そのような達成度になった理由は何だと思いませんか。活動を促進、又は阻害した事柄があれば、簡単に説明して下さい。

促進した事柄：

阻害した事柄：

(11) 活動開始から終了までの間に、C/P 又は配属先の知識・技術はどの程度向上しましたか。

1. 大きく向上した
2. 向上した
3. あまり向上しなかった
4. 全く向上しなかった
5. むしろ低下した

「大きく向上した」「向上した」と回答された方に質問します。どのような向上が見られましたか。

(12) 隊員としての活動により配属先や C/P の勤務姿勢の向上（遅刻の減少、発言の変化、態度の向上等）に影響しましたか

1. 大きく影響した
2. 多少は影響した
3. あまり影響しなかった
4. 全く影響しなかった

(13) 隊員としての活動は、配属先の組織体制の向上に影響しましたか。

1. 大きく影響した
2. 多少は影響した
3. あまり影響しなかった
4. 全く影響しなかった

問 14～26 については、あなたが派遣されていた時期の状況についてお答え下さい。

(14) ご自身の職種と配属先の求める技術の種類とは一致していましたか。

1. 完全に一致していた
2. ほぼ一致していた
3. 特に支障はなかった
4. あまり一致していなかった
5. 全く一致していなかった

(15) ご自身の技術レベルと配属先の求める技術のレベルとは一致していましたか。

1. 求められる方が高かった
2. 求められる方がやや高かった
3. 一致していた
4. 求められる方がやや低かった
5. 求められる方が低かった

(16) チーム全体としてみた場合、派遣された隊員の数は妥当だったと思いますか。

1. 多すぎた
2. やや多かった
3. 妥当
4. やや少なかった
5. 少なすぎた
6. わからない

(17) チーム全体としてみた場合、派遣された隊員の技術分野は妥当だったと思いますか。

1. 妥当であった
2. 妥当でない部分があった
3. わからない

・「妥当でない部分があった」と答えた方にうかがいます。妥当でない部分はどのような部分か教えてください。（複数回答可）

- a. 不必要な分野があった（具体的に： _____）
- b. もっと加えたらよいと思う分野があった（具体的に： _____）

(18) チーム全体としてみた場合、隊員の技術レベルは妥当だったと思いますか。

1. 十分な能力がある隊員が選定されていた
2. 一部を除いてほぼ妥当な人選がなされていた
3. 隊員の人選には問題があった
4. わからない
5. その他（具体的に： _____）

(19) リーダーは必要だと思いますか。

1. はい
2. いいえ

・「はい」と答えた方にうかがいます。リーダーにはどのような人が適切だと思いますか。

- a. 隊員の中から互選で選ばれた人
- b. シニア隊員
- c. 専門家
- d. その他（具体的に： _____）

(20) あなたの活動で投入した主な機材と、特に役に立った機材を教えてください。

主な機材：

特に役に立った機材：

(21) チーム派遣の機材供与の規模は妥当だったと思いますか。

1. 多すぎた
2. やや多かった
3. 妥当
4. やや少なかった
5. 少なすぎた

(22) チーム派遣の現地業務費（活動費）の額は妥当だったと思いますか。

1. 多すぎた
2. やや多かった
3. 妥当
4. やや少なかった
5. 少なすぎた

(23) 着任当初、配属先は隊員の活動計画や役割分担などについて十分に理解していましたか。

1. 十分に理解していた
2. 理解していた
3. 特に支障はなかった
4. やや理解不足であった
5. かなり理解不足であった

(24) 着任当初、配属先のプロジェクトに対する受入能力（安定性、調整能力、予算等）は十分なレベルでしたか。

1. 高かった
2. やや高かった
3. 普通
4. やや低かった
5. 低かった

(25) 着任当初、パートナーとなる C/P の知識・経験・能力は高かったですか。

1. 高かった
2. やや高かった
3. 普通
4. やや低かった
5. 低かった

(26) C/P の人数は、チーム派遣の技術移転を効果的に進めるのに妥当でしたか。

1. 多すぎた
2. やや多かった
3. 妥当
4. やや少なかった
5. 少なすぎた

<チーム派遣と個別派遣の比較についてお聞きします>

(27) あなたが派遣前に青年海外協力隊の活動に期待していたことは、次のうちどれですか。(複数回答可)

1. 目標を設定し、その目標を達成すること
2. 自分のもてる技術や労働力を提供し、現地の人々の生活改善に役立つこと
3. 現地の人との交流
4. 異文化経験を通じた自己啓発
5. 国際協力関係の仕事につくためのステップ
6. その他(具体的に:)

(28) 自分自身はチーム派遣隊員として派遣されて、よかったですか。

1. 非常によかった
2. よかった
3. 特に不満はない
4. 不満である
5. 非常に不満である

(29) 個別派遣と比べて、チームで活動することのメリットは何だと思えますか。(複数回答可)

1. 個人よりも、大きな成果が上げられる
2. 活動費や機材費がつくので、活動がスムーズに行える
3. 事務所や車両が提供される
4. 受入側の理解や体制が、個別よりも比較的整っている
5. 組織で動くので、配属先との調整・協議がしやすい
6. 他隊員や専門家と知識や経験の交換ができる
7. 入ってくる情報が多い
8. 仲間と知識や経験の共有ができる
9. 不安が少ない
10. 活動現場に入っていやすい
11. ODA の現場を体験できるよい環境である
12. その他(具体的に:)

(30) チームで活動することのデメリットは何だと思えますか。(複数回答可)

1. 自分で活動目標が決められない
2. 管理されている印象が強い
3. 日本人と接触する機会が多く、逆に現地の人と接触する機会が少ない
4. 現地の言葉が上達しにくい
5. 人間関係がこじれると、活動にも影響がでる
6. 煩雑な事務処理が多い
7. その他(具体的に:)

<あなたの所属したプロジェクトの実施体制についてお聞きします>

(31) 活動計画の修正・モニタリングは定期的に行われていましたか。

1. 月に1回程度行われていた
2. 4半期に1回程度行われていた。
3. 年に1回程度行われていた
4. 数年に1回程度行われていた
5. 計画修正やモニタリングは行われなかった
6. その他(具体的に:)

(32) 派遣期間中に、活動計画の修正・モニタリングをもっと強化するとしたら、どんな方法が望ましいと思えますか。(複数回答可)

1. 現状のままでよい
2. 日本からの技術支援のための調査団派遣
3. 日本からの計画修正のための調査団派遣
4. 在外事務所がもっと計画に対するアドバイスをする
5. チーム内の隊員同士でもっと強化する
6. 配属先の上層機関などがモニタリングを行う。
7. その他(具体的に:)

(33) チーム派遣のモニタリングの方法について、どう思えますか。

1. 現状のままでよい
2. もっと頻繁にモニタリング調査団がきてほしい
3. 在外事務所が計画修正する方がいい
4. 自分達で計画修正する方がいい
5. その他(具体的に:)

評価の方法に対する問題点・改善点があれば簡単に説明して下さい。

(34) 個々の隊員の活動に対する第三者の評価は必要だと思えますか。

1. 必要(理由は:)
2. 不必要(理由は:)
3. わからない

(35) プロジェクト実施中の在外事務所の対応に関して、改善すべき点がありますか。

1. 特になし
2. ある

具体的に：

(36) 運営や技術支援に対する JICA 本部の対応に関して、改善すべき点がありますか。

1. 特になし
2. ある

「ある」と答えた方にうかがいます。それはどこに対する改善点でしょう（複数回答可）。
またその内容を具体的に説明してください。

a. 国内支援委員会に対して

具体的に：

b. 本部事務局に対して

具体的に：

c. 技術顧問に対して

具体的に：

「ある」と答えた方にうかがいます。それはどこに対する改善点でしょう（複数回答可）。
またその内容を具体的に説明してください。

a. 国内支援委員会に対して
具体的に：

b. 本部事務局に対して
具体的に：

c. 技術顧問に対して
具体的に：

<協力隊事業全般の管理運営体制についてお聞きします。>

(37) 募集応募時の対応に関して、改善すべき点がありますか。

1. 特になし
2. ある（具体的に： _____)

(38) 派遣前訓練に関して、改善すべき点がありますか。（複数回答可）

1. 特になし
2. 訓練期間（具体的に： _____)
3. 訓練内容（具体的に： _____)
4. 訓練所の施設・サービス（具体的に： _____)

(39) 語学研修に関して、改善すべき点がありますか。（複数回答可）

1. 特になし
2. ある

具体的に：

(40) 現地着任時の体制に関して、改善すべき点はありますか。(複数回答可)

1. 特になし
2. 現地訓練(具体的に:)
3. 在外事務所の対応(具体的に:)
4. 配属先への説明(具体的に:)

<国際協力分野の人材育成の観点からお聞きします>

(41) 隊員として活動したことによって、その他、能力的に向上したことはありますか。できるだけ具体的な例を挙げて説明して下さい。

(42) あなたは現在、国際協力に携わる仕事をしていますか。

1. はい(具体的に業務内容など:)
2. いいえ

・「いいえ」と答えた方は以下の選択肢の該当するものに○をつけてください。(複数回答可)

- a. 今後、できれば国際協力に携わる仕事をしてみたい
- b. 現在、国際協力に関する勉強中
- c. 現職参加
- d. 特に国際協力に携わる仕事を希望していない
- e. わからない

(43) あなたは現在、国際協力に携わる何らかの活動をしていますか。(複数回答可)

1. 仕事の一部で経験を生かした活動をしている
2. ボランティア活動をしている
3. ほとんど実施していない
4. その他(具体的に:)

(44) あなた自身或いは回りのOB/OGをみていて、国際協力の分野で活動しようと思う人にとって、JICAの帰国後の支援は十分でしたか。

1. 十分
2. ほぼ十分
3. あまり十分でない
4. 全く不足している
5. JICAの支援は必要ない
6. わからない

(45) あなたが、日本の ODA 事業の中で知っているものに○をつけて下さい。(複数回答可)

1. 専門家派遣
2. 無償資金協力
3. 開発調査
4. プロジェクト方式技術協力(プロ技)
5. 開発福祉支援
6. 研修員受入
7. 現地国内研修
8. 第三国研修
9. 円借款
10. 草の根無償
11. 小さなハートプロジェクト
12. 青年海外協力隊以外は知らない
13. その他(具体的に: _____)

<国際交流の観点からお聞きします>

(46) 帰国後、派遣されていた国の人々と交流が続いていますか。

1. 頻繁に交流している
2. たまに交流している
3. ほとんど交流していない
4. 全く交流していない

交流が続いている方は、具体的にどのような交流をしていますか。

(47) 派遣中に、派遣国において日本について紹介するような活動を行いましたか。

1. 非常に積極的に行った
2. 多少は行った
3. ほとんど行わなかった
4. 全く行わなかった

活動を行った方は、あなたの活動によってどのような影響・反響がありましたか。

たくさんの質問にお答えいただき、ありがとうございました。ご協力に感謝いたします。

青年海外協力隊チーム派遣に関するアンケート調査

【一般隊員用】

国際協力事業団（JICA）の事業につきましては、日頃よりご協力をいただきありがとうございます。

さて、JICA では、青年海外協力隊事業の一形態として、共通の活動目標のもとに複数の隊員を派遣することにより、地域経済・社会開発や生活向上を目指す「チーム派遣」事業を展開しております。JICA は、チーム派遣事業のさらなる向上を目指して、これまで実施したチーム派遣に関する調査を実施することといたしました。

本アンケート調査は、セネガル・マラウイ・フィリピン・タイの案件を中心に、隊員 OB/OG の皆様の幅広いご意見をお聞かせいただくことを目的といたします。なお、チーム派遣のメンバーではなかった方々のご意見も参考にさせていただきたいと思っておりますので、一般隊員の方もご協力をお願いします。

皆様にご回答いただいたアンケートは、分析以外の用途に使用せず、個別情報の外部への提供は一切行いませんので、できるだけお名前についても記載をお願いします。

このアンケート結果を踏まえた調査結果は、来春頃に JICA ホームページ上に公開予定です。

ご多忙中たいへん恐縮ではありますが、ご協力よろしくお願い申し上げます。

国際協力事業団 青年海外協力隊事務局

ご記入が終わりましたら、同封の返信用封筒にお名前をご記入の上で、

11月12日（月）までに、ご投函下さい。

◎ 本アンケートに関するお問い合わせは、以下にお願いいたします。

国際協力事業団 青年海外協力隊事務局

担当：畠中（はたけなか） TEL：03-5352-5575 e-mail：hatakenaka.michiko@jica.go.jp

<ご自身についてお答え下さい。>

(1) お名前	
(2) 派遣国	国
(3) 職種	
(4) 隊次	

以下の質問に、最も適切な選択肢一つに○をつけてお答え下さい。ただし、一部「複数回答可」の質問もあります。

<あなたの現地での活動についてお聞きします。>

- (1) あなたの当初の活動計画は、最終的に何%程度達成されたと思いますか。(％を示す数字を○で囲んで下さい)

100 - 90 - 80 - 70 - 60 - 50 - 40 - 30 - 20 - 10 - 0 %

そのような達成度になった理由は何だと思えますか。活動を促進、又は阻害した事柄があれば、簡単に説明して下さい。

促進した事柄：

阻害した事柄：

- (2) ご自身の職種と配属先の求める技術の種類とは一致していましたか。

1. 完全に一致していた
2. ほぼ一致していた
3. 特に支障はなかった
4. あまり一致していなかった
5. 全く一致していなかった

- (3) ご自身の技術レベルと配属先の求める技術のレベルとは一致していましたか。

1. 求められる方が高かった
2. 求められる方がやや高かった
3. 一致していた
4. 求められる方がやや低かった
5. 求められる方が低かった

- (4) あなたの活動で投入した主な機材と、特に役に立った機材を教えてください。

主な機材：

特に役に立った機材：

- (5) あなたの機材供与の規模は妥当だったと思えますか。

1. 多すぎた
2. やや多かった
3. 妥当
4. やや少なかった
5. 少なすぎた

- (6) あなたの現地活動費の額は妥当だったと思いますか。
1. 多すぎた
 2. やや多かった
 3. 妥当
 4. やや少なかった
 5. 少なすぎた
- (7) 着任当初、配属先はあなたの活動計画や役割分担などについて十分に理解していましたか。
1. 十分に理解していた
 2. 理解していた
 3. 特に支障はなかった
 4. やや理解不足であった
 5. かなり理解不足であった
- (8) 着任当初、配属先のプロジェクトに対する受入能力（安定性、調整能力、予算等）は十分なレベルでしたか。
1. 高かった
 2. やや高かった
 3. 普通
 4. やや低かった
 5. 低かった
- (9) 着任当初、パートナーとなる C/P の知識・経験・能力は高かったですか。
1. 高かった
 2. やや高かった
 3. 普通
 4. やや低かった
 5. 低かった

<個別派遣とチーム派遣の比較についてお聞きします>

- (10) あなたが派遣前に青年海外協力隊の活動に期待していたことは、次のうちどれですか。（複数回答可）
1. 目標を設定し、その目標を達成すること
 2. 自分のもてる技術や労働力を提供し、現地の人々の生活改善に役立つこと
 3. 現地の人との交流
 4. 異文化経験を通じた自己啓発
 5. 国際協力関係の仕事につくためのステップ
 6. その他（具体的に： _____)
- (11) 自分自身は個別隊員として派遣されて、よかったと思いますか。
1. 個別派遣がよかった
 2. チーム派遣がよかった
 3. どちらでもよかった
 4. その他（具体的に： _____)

(12) 個別派遣と比べて、チームで活動することのメリットは何だと思えますか。(複数回答可)

1. 個人よりも、大きな成果が上げられる
2. 活動費や機材費がつくので、活動がスムーズに行える
3. 事務所や車両が提供される
4. 受入側の理解や体制が、個別よりも比較的整っている
5. 組織で動くので、配属先との調整・協議がしやすい
6. 他隊員や専門家と知識や経験の交換ができる
7. 入ってくる情報が多い
8. 仲間と知識や経験の共有ができる
9. 不安が少ない
10. 活動現場に入っていやすい
11. ODA の現場を体験できるよい環境である
12. その他(具体的に:)

(13) チームで活動することのデメリットは何だと思えますか。(複数回答可)

1. 自分で活動目標が決められない
2. 管理されている印象が強い
3. 日本人と接触する機会が多く、逆に現地の人と接触する機会が少ない
4. 現地の言葉が上達しにくい
5. 人間関係がこじれると、活動にも影響がでる
6. 煩雑な事務処理が多い
7. その他(具体的に:)

<協力隊事業全般の管理運営体制についてお聞きします。>

(14) 募集応募時の対応に関して、改善すべき点がありますか。

1. 特になし
2. ある(具体的に:)

(15) 派遣前訓練に関して、改善すべき点がありますか。(複数回答可)

1. 特になし
2. 訓練期間(具体的に:)
3. 訓練内容(具体的に:)
4. 訓練所の施設・サービス(具体的に:)

(16) 語学研修に関して、改善すべき点がありますか。(複数回答可)

1. 特になし
2. ある

具体的に:

(17) 現地着任時の体制に関して、改善すべき点がありますか。(複数回答可)

1. 特になし
2. 現地訓練 (具体的に: _____)
3. 在外事務所の対応 (具体的に: _____)
4. 配属先への説明 (具体的に: _____)

(18) 現地で活動中の在外事務所の対応に関して、改善すべき点がありますか。

1. 特になし
2. ある

具体的に:

(19) 運営や技術支援に対する JICA 本部の対応に関して、改善すべき点がありますか。

1. 特になし
2. ある

「ある」と答えた方にかかっています。それはどこに対する改善点でしょうか (複数回答可)。またその内容を具体的に説明してください。

a. 国内支援委員会に対して
具体的に:

b. 本部事務局に対して
具体的に:

c. 技術顧問に対して
具体的に:

<国際協力分野の人材育成の観点からお聞きします。>

(20) 隊員として活動したことによって、その他、能力的に向上したことはありますか。できるだけ具体的な例を挙げて説明して下さい。

- (21) あなたは現在、国際協力に携わる仕事をしていますか。 (複数回答可)
1. はい (具体的に業務内容など：)
 2. いいえ

- ・「いいえ」と答えた方は以下の選択肢の該当するものに○をつけてください。(複数回答可)
- a. 今後、できれば国際協力に携わる仕事をしてみたい
 - b. 現在、国際協力に関する勉強中
 - c. 現職参加
 - d. 特に国際協力に携わる仕事を希望していない
 - e. わからない

- (22) あなたは現在、国際協力に携わる何らかの活動をしていますか。(複数回答可)
1. 仕事の一部で経験を生かした活動をしている
 2. ボランティア活動をしている
 3. ほとんど実施していない
 4. その他 (具体的に：)

- (23) あなた自身或いは回りのOB/OGをみていて、国際協力の分野で活動しようと思う人にとって、JICAの帰国後の支援は十分でしたか。
1. 十分
 2. ほぼ十分
 3. あまり十分でない
 4. 全く不足している
 5. JICAの支援は必要ない
 6. わからない

- (24) あなたが、日本のODA事業の中で知っているものに○をつけて下さい。(複数回答可)
1. 専門家派遣
 2. 無償資金協力
 3. 開発調査
 4. プロジェクト方式技術協力 (プロ技)
 5. 開発福祉支援
 6. 研修員受入
 7. 現地国内研修
 8. 第三国研修
 9. 円借款
 10. 草の根無償
 11. 小さなハートプロジェクト
 12. 青年海外協力隊以外は知らない
 13. その他 (具体的に：)

<国際交流の観点からお聞きします>

(25) 帰国後、派遣されていた国の人々と交流が続いていますか。

1. 頻繁に交流している
2. たまに交流している
3. ほとんど交流していない
4. 全く交流していない

交流が続いている方は、具体的にどのような交流をしていますか。

(26) 派遣中に、派遣国において日本について紹介するような活動を行いましたか。

1. 非常に積極的に行った
2. 多少は行った
3. ほとんど行わなかった
4. 全く行わなかった

活動を行った方は、あなたの活動によってどのような影響・反響がありましたか。

<その他>

(27) 個々の隊員の活動に対する第三者の評価は必要だと思いますか。

1. 必要（理由は： _____）
2. 不必要（理由は： _____）
3. わからない

(28) 協力隊活動を振り返って、あなたにとって協力隊での体験は、どのような意味があったと思いますか。自由にお書き下さい。

たくさんの質問にお答えいただき、ありがとうございました。ご協力に感謝いたします。